

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グリーンアジア国際戦略プログラム	申請大学名	九州大学
申請大学長名	有川 節夫		
プログラム責任者	中島 英治		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none">・これまでのアジア圏の大学との連携の実績を踏まえ、グリーン化と経済成長を両立させた理工系リーダーを養成するという時宜を得た計画である。学位プログラムの内容もきわめて具体的かつ精緻に構築されている。新たな入試制度の導入、ステージゲートによる教育の質の保証、幅広い講義、さらには研究室ローテーション制やインターンシップなど新たな試みを実行に移しつつある点は高く評価でき、学生からも好評である。ただ、新たな試みゆえに講義日程の確認などプログラム実施上のいくつかの問題点が残されている。このため、教員、学生の双方に走りながら考えるという側面もあることは否めないものの、相互に協力しながら柔軟に対応してきている。2年目以降はより円滑に本プログラムが所定の成果を上げていくものと期待される。・修士論文を課さない博士課程前期・後期一貫した学位プログラムであることから、通常の修士課程の学生のように就職活動などに費やす時間が節約できている。このため、広範な講義、演習などを学生が十分にこなしていける体制となっていることは高く評価される。・インターンシップや研究室ローテーション制により、学生が新しい視点や広範な考え方を吸収できると実感している点は高く評価できる。・1年目の入学者はプログラムスタート時における時間的な制約から大幅に定員を割ったものの、優秀な学生を集めている。2年目は広報などが充実してきていることから、十分な定員と学生の質を確保できるものと期待される。・本プログラムの発足に際して、九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センターの設立や関係する全学規則や学府規則などの整備も進められ、全学的なマネジメント体制が整ったものと評価される。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none">・本プログラムでは修士論文は課さないことになっているものの、事実上それを課している研究室も存在するようである。修士論文の取り扱いについて実態把握と統一的な対応について検討されたい。・外国人留学生はプロフェッショナル志向が強いため、本プログラムが「期待外れ」とならないよう配慮が必要である。単に「奨学金付きのプログラム」と誤解して参加する留学生もありうると思われるため、プログラムの趣旨をよく理解した学生を確保できるような方策が必要である。・産官学にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成するという目的でありながら、現在在学中の学生のほとんど(6名中5名)が研究者志望である点が懸念される。今後、学生の目標も変化すると思われるが、その進路に注視するとともに、必要に応じて適切な進路指導が望まれる。			